

2005年2月24日

男性は一段落、女性は好調な伸びを示す地上デジタル放送

博報堂DYメディアパートナーズ「地上デジタル放送浸透度調査」

博報堂DYメディアパートナーズでは、2003年12月の地上デジタル放送開始に先立ち、同年7月より視聴者における地上デジタル放送に関する浸透度調査を実施してまいりました。この調査は現在計5回の調査を終了したところです。その結果をまとめましたのでご紹介いたします。

今回の調査結果によると、「地上デジタル放送」という言葉は「聞いた気がする」も含めるとほぼ全ての人が知っており、「聞いたことがある」という確信者についても、前回同様9割超に達していることが分かりました。この他、「地上デジタル放送の理解（人に説明できる + 自分では理解している）」については4割、「地上デジタル放送への期待（非常に期待 + まあまあ期待）」については6割、視聴意向時期については「サービス開始と共にすぐ」が1割と、全般的に前回の調査結果とほぼ同等の結果になりました。これは、本放送開始前後のような地上デジタル放送そのものに対する報道や話題性がなくなってきたことが原因といえるかもしれません。

しかし、同じ項目を男女別にみてみると、男性は伸び悩んでいるのに対し、女性は順調に理解が進んでいることが分かりました。男女の差が縮まり、本当の意味での定着が進んでいると言えるかもしれません。

また、地上デジタル放送対応のテレビの所有率については、今回11.1%で1割を上回り、第1回からの推移をみると、所有率は小さいながら順調に推移しています。

なお、今回の調査結果については2ページ目以降でご紹介しております。

「主な調査結果」について（P.2～P.6）

「その他関連調査結果」について（P.7～P.10）

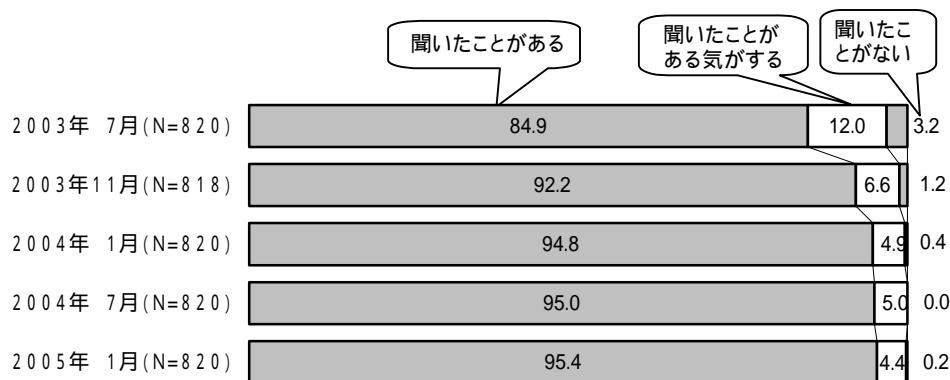
「調査設計」について（P.11）

本件に関するお問い合わせ

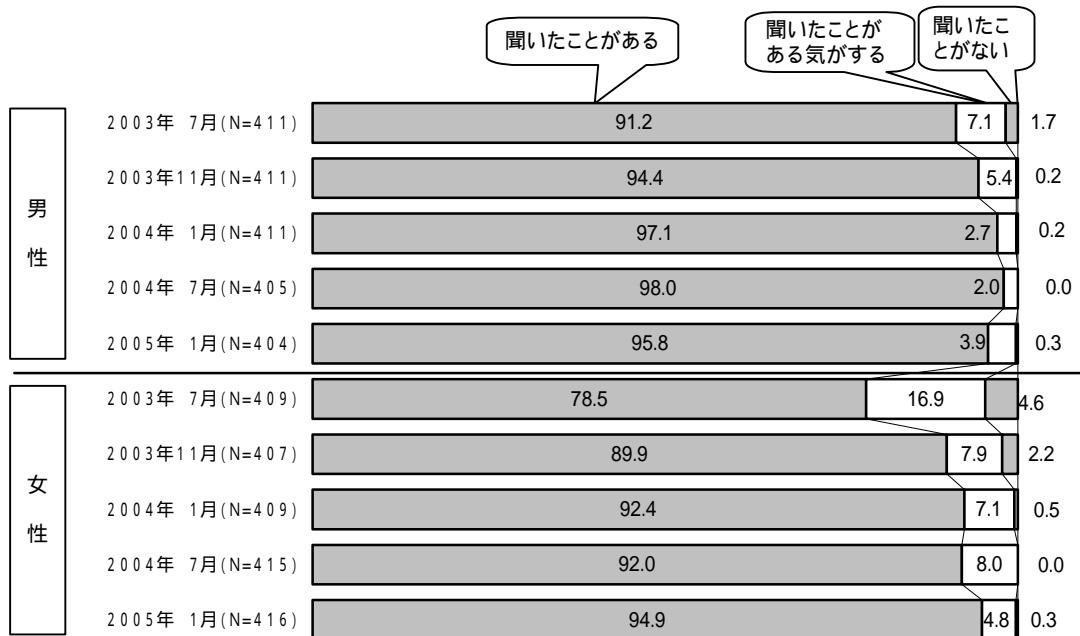
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
メディアマーケティング局 井徳・高橋 Tel: 03-6218-9381
総務・法務・広報グループ 山下・長澤 Tel: 03-6218-9179

主な調査結果

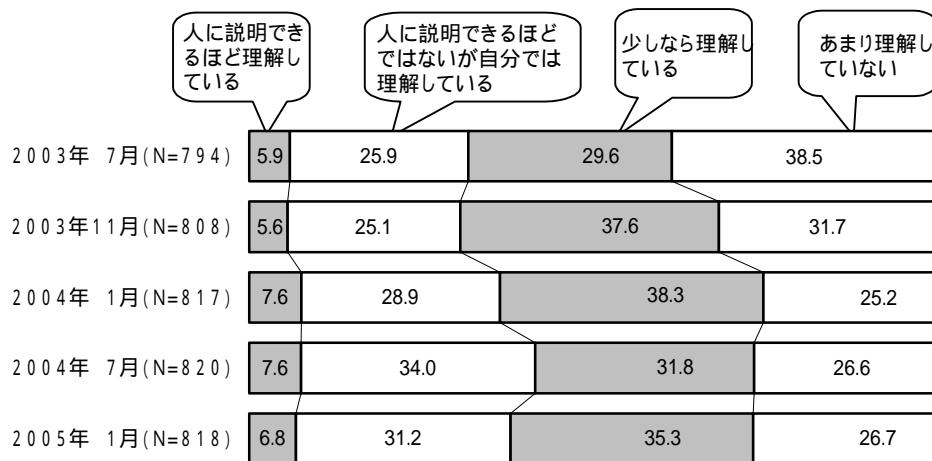
「地上デジタル放送」ということばを聞いたことがあるという確信者は、第1回調査時点こそ85%と8割台でしたが、第2回調査時点からは9割超とほぼ全員に認知されています。



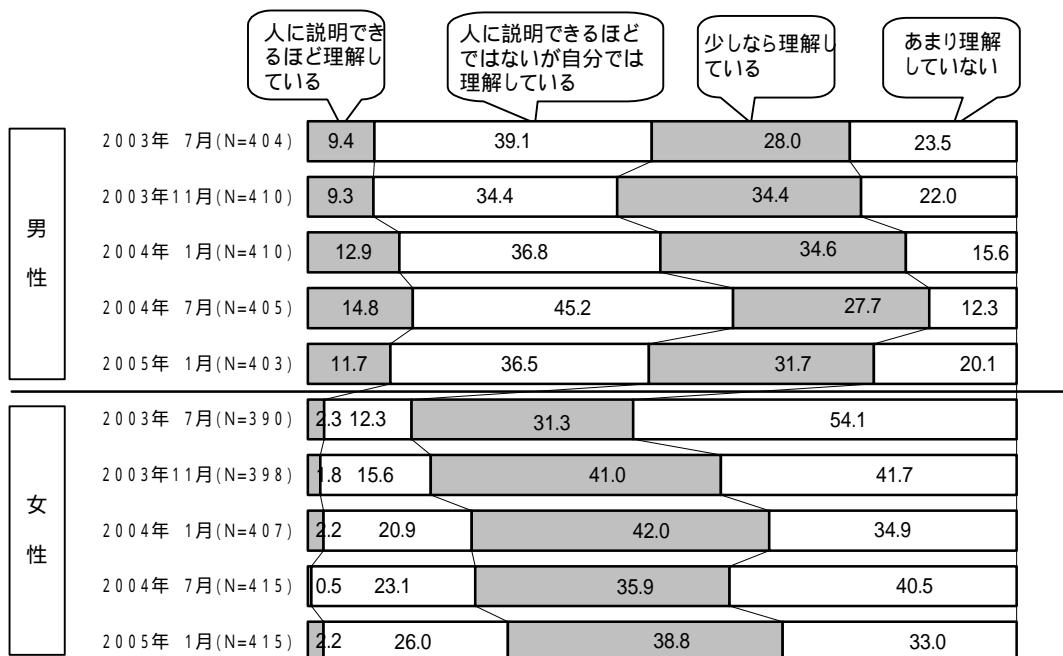
男女別でみてみると、「地上デジタル放送」ということばを聞いたことがあるという確信者の数値は、調査開始時点より女性の伸びが著しく、男性96%、女性95%とほぼ同等の結果になりました。



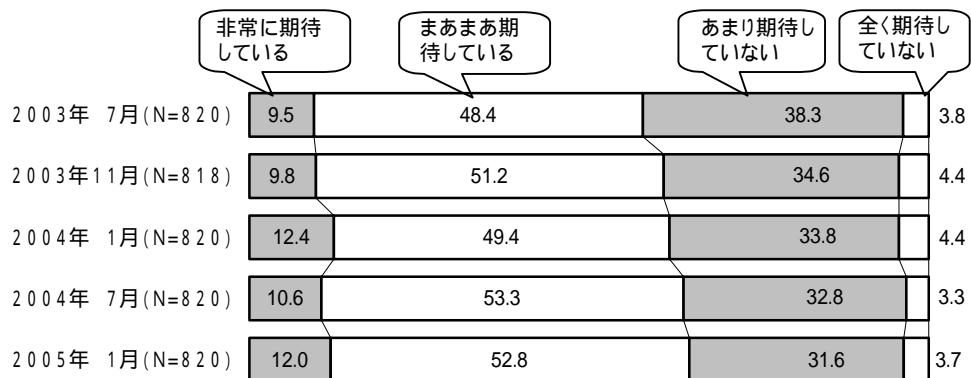
「地上デジタル放送」について内容を理解(人に説明できる + 自分では理解)している人は今回38%で、昨年7月からは4ポイントダウンしています。6割の人は「少ししか理解していない」および「あまり理解していない」と回答しており、ことば自体は耳に聞いていても、まだ内容を充分理解するまでに至っていないのが現状です。



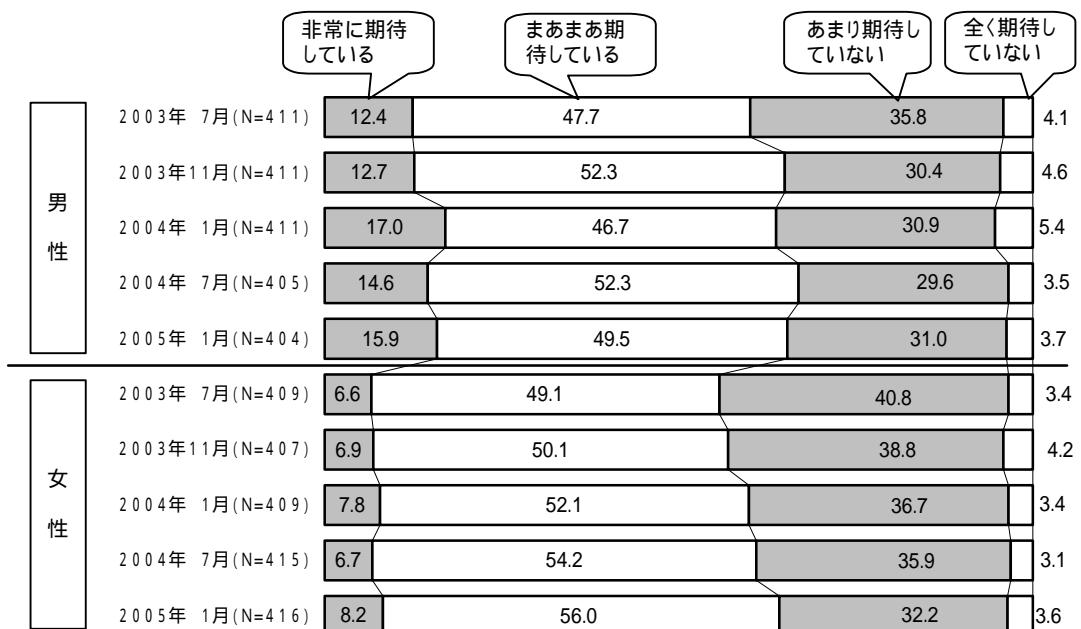
「地上デジタル放送」の内容まで理解している人は男性5割、女性3割で男性が圧倒的に高いものの、女性の理解者は順調に伸びています。



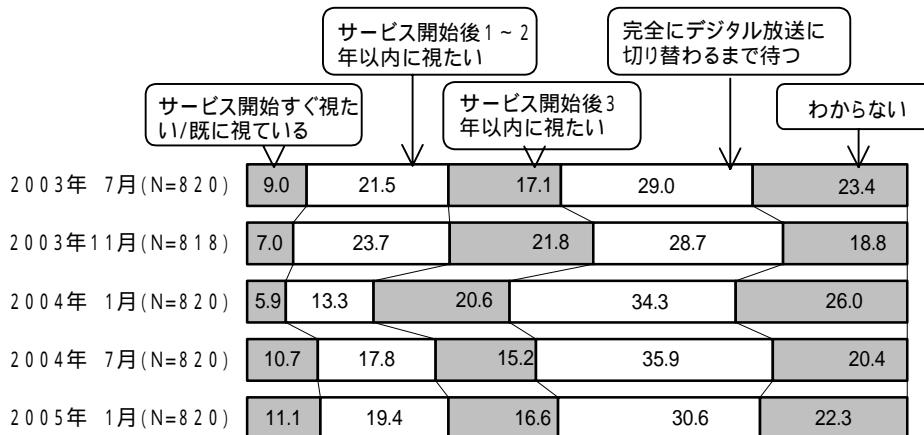
「地上デジタル放送」を期待している人は「まあまあ期待」も含めると微増ながら増加しており、今回時点で65%に達しました。第1回調査以降7ポイント増加しています。



地上デジタル放送への期待を男女別でみると、「非常に期待」と「まあまあ期待」を合わせた「期待層」は、男性65%、女性が64%と男女差がなくなりました。



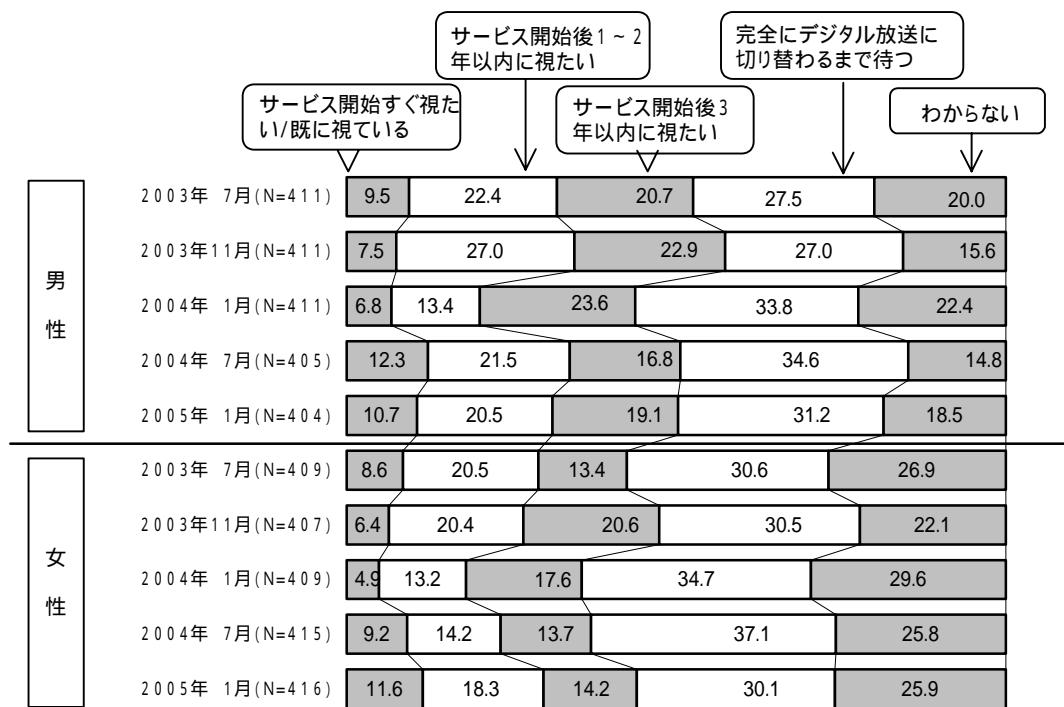
地上デジタル放送の視聴意向時期についてみてみると、「サービス開始と共にすぐ(04年1月調査以降は既に視ている人も含む)」は前回同様11%と1割を上回っています。「既に視ている」は04年1月が1.8%、04年7月が3.3%、今回が4.6%と着実に伸びています。



(注)04年1月調査以降「既に視ている」項目を新設

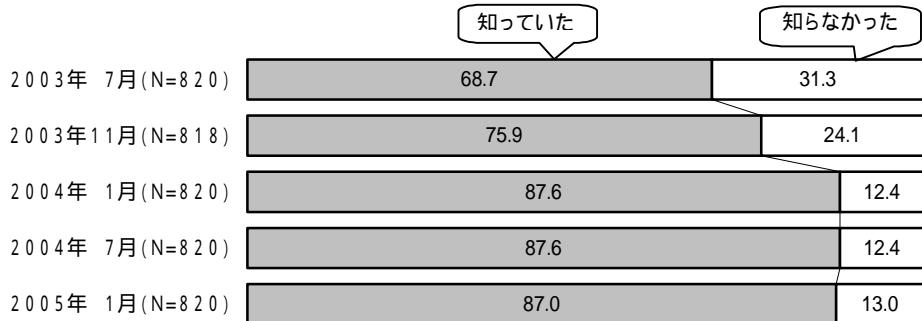
内訳:04年1月:「既に視ている(1.8%)」/04年7月「既に視ている(3.3%)」/05年1月「既に視ている(4.6%)」

男女別に地上デジタル放送の視聴意向時期についてみてみると、「すぐに視たい／既に見ている」は女性がわずかにアップし、男性をはじめて上回りました。

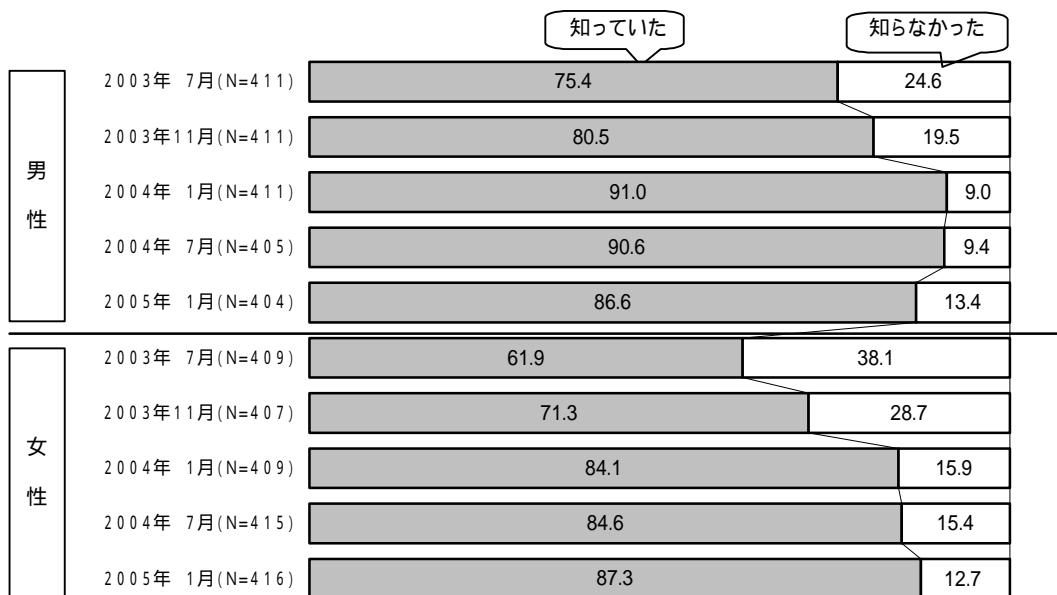


内訳:04年1月:「既に見ている」(男性:2.2%)(女性:1.5%)/04年7月:「既に見ている」(男性:3.2%)(女性:3.4%)/05年1月:「既に見ている」(男性:3.5%)(女性:5.8%)

地上デジタル放送を視聴するためにデジタル対応チューナーあるいは対応テレビが必要なのを知っている人は、前回同様およそ9割の人が認知しており、本放送が開始された03年12月以降認知者が増えています。

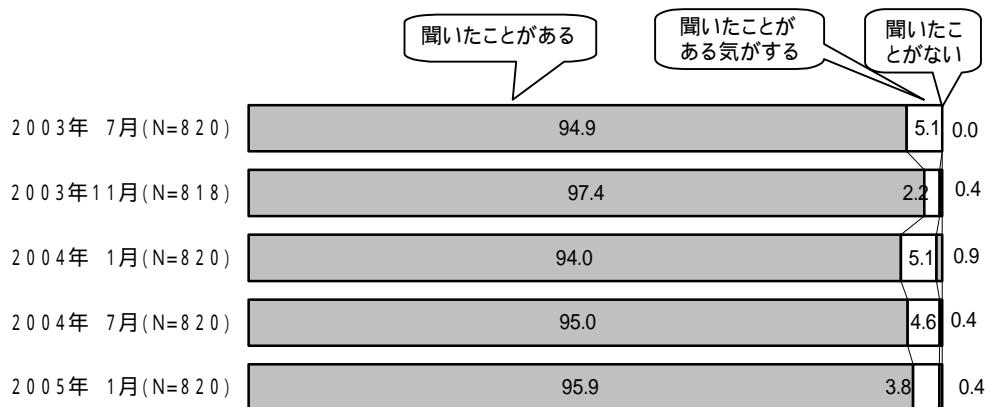


男女別では、男女ともにほぼ9割の認知ですが、女性の認知者は調査開始時点より順調に推移しており、男性は減少傾向にあります。

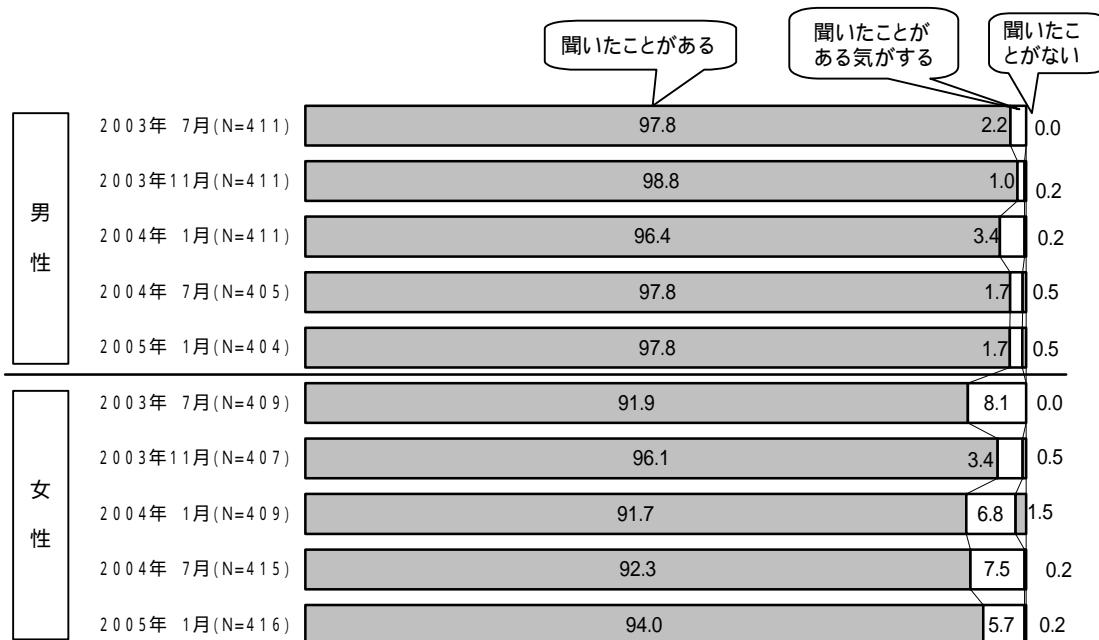


その他関連調査結果

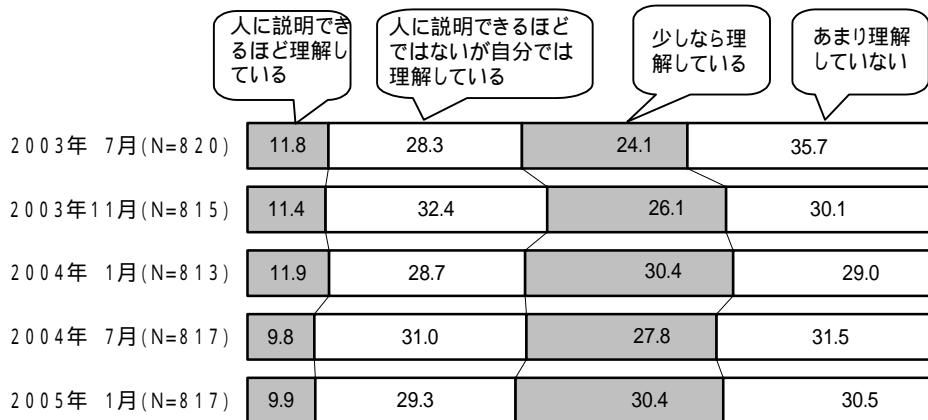
「プロードバンド」ということばについては、「聞いたことがある」と回答した人の割合は第1回目(2003年7月)の調査から、95%前後の数値で推移しており、日常生活に溶け込んでいるといえます。



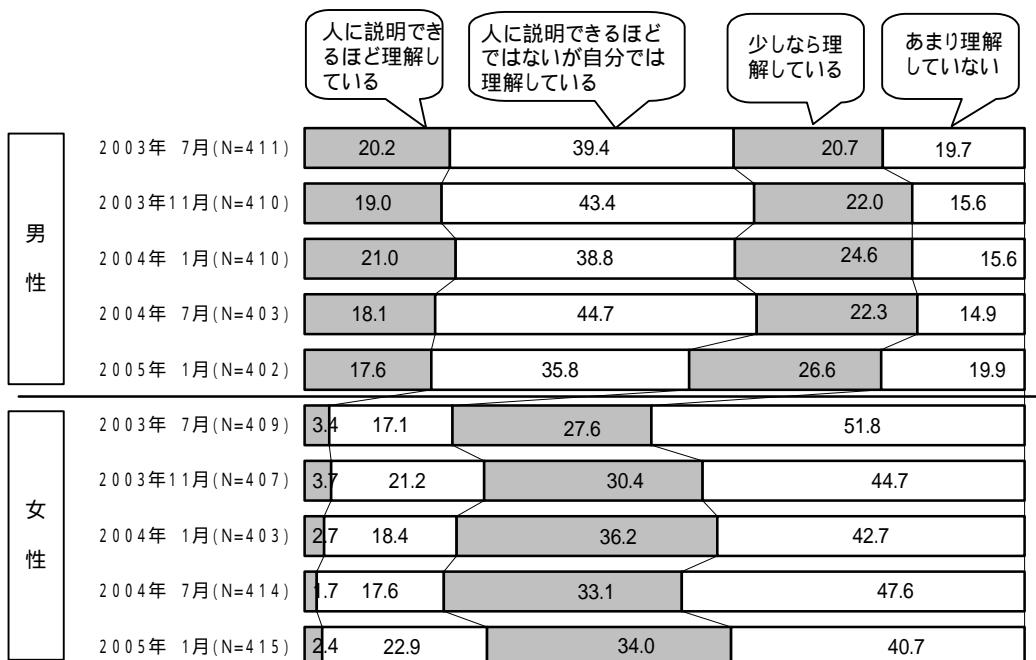
男女別にみてみると、全調査ともに「プロードバンド」ということばを「聞いたことがある」人は男性がほぼ全員、女性もやや低いがそれでも9割以上を示しており、「聞いたことがある気がする」も含めると男女ともほぼ100%で差異はみられませんでした。



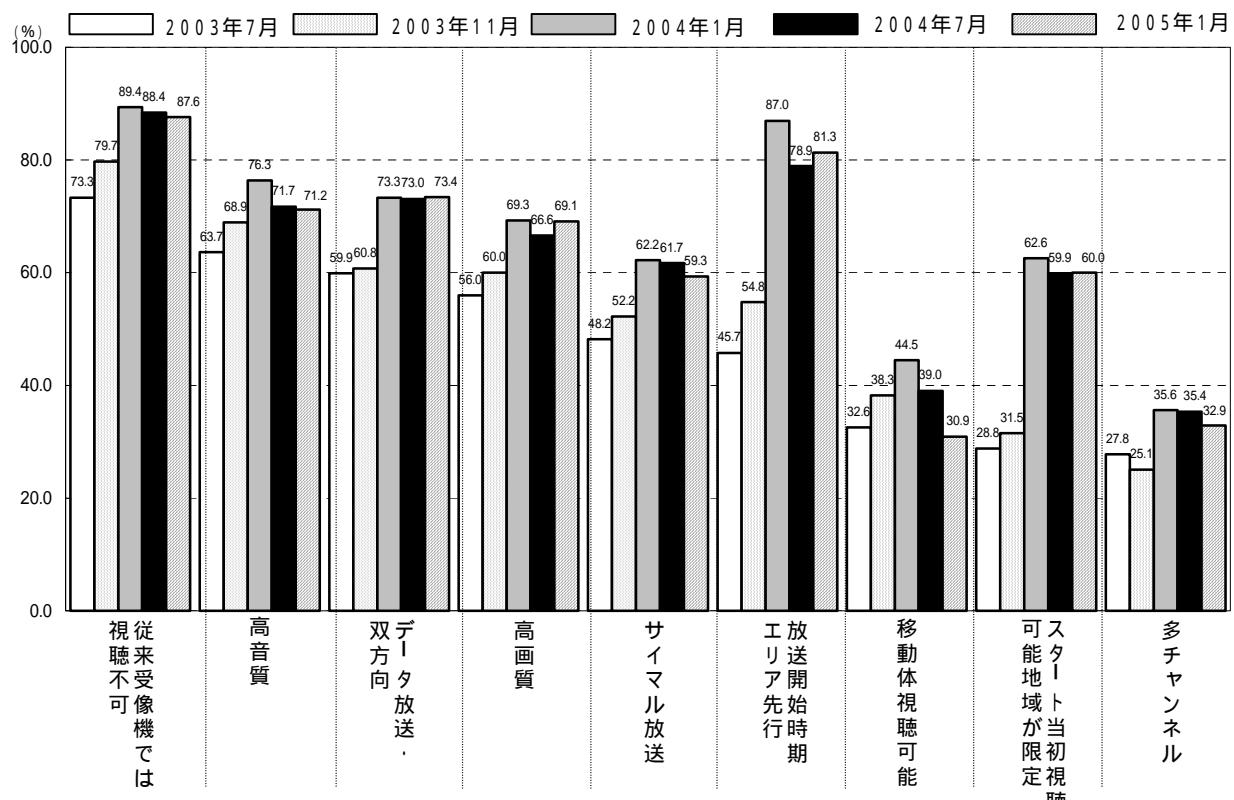
「ブロードバンド」ということばはほぼ全員が知っていますが、その内容理解をみると「少しなら理解」している人も含めた理解自認者は7割程度というのが現状です。



男女別でみると、「ブロードバンド」に対する女性の理解者は増加傾向にあるのに対し、男性の理解者は今回の調査ではやや減少傾向しました。



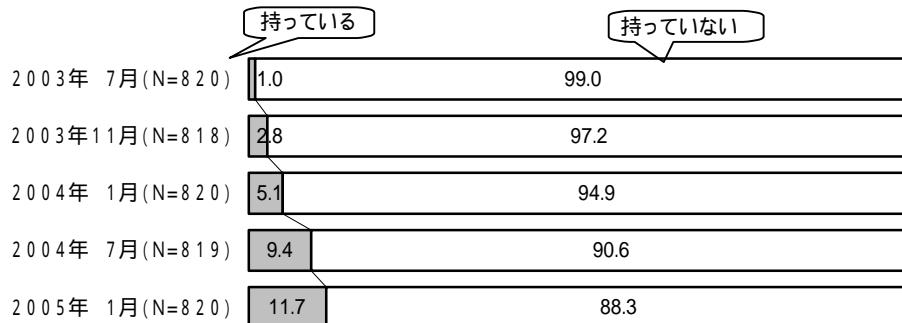
地上デジタル放送の特性認知を今回の調査結果でみると、前回とほぼ同様で、「従来の受像機では見られない」ことに関しては9割近い人が認知しています。「放送開始時期でのエリア先行放送」については8割、「高音質」「データ放送・双方向」「高画質」については7割、「サイマル放送」「スタート当初はエリア内でも視聴地域が限定」はほぼ6割の認知です。「移動体での視聴可能」「多チャンネル視聴」については認知が伸び悩んでいます。



03年7月 VS 05年1月	+ 14.3	+ 7.5	+ 13.5	+ 13.1	+ 11.1	+ 35.6	- 1.7	+ 31.2	+ 5.1
04年7月 VS 05年1月	- 0.8	- 0.5	+ 0.4	+ 2.5	- 2.4	+ 2.4	- 8.1	+ 0.1	- 2.5

数値は今回(05年1月)を基準にしての増減値(%)

地上デジタル放送対応テレビの所有率は11.7%で1割を上回りました。調査開始時点からの推移をみると所有率自体は小さいながら順調に推移しています。



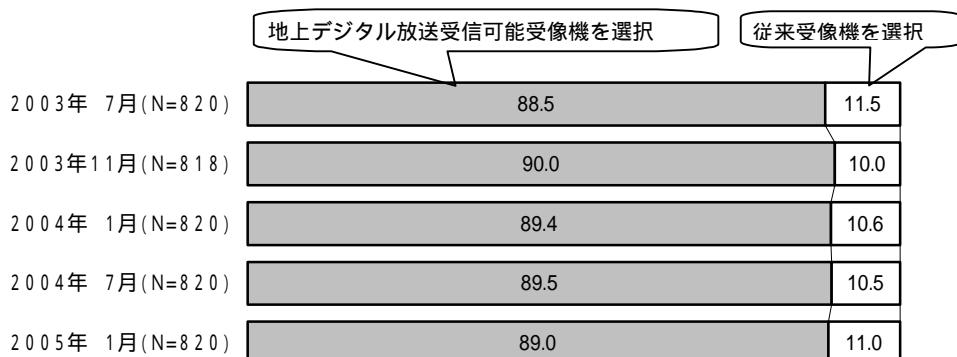
(注)：04年1月調査では所有を「デジタル放送を受信できるテレビ」と「デジタル放送を受信できる外付けチューナーを持ってる」の2項目に分けて調査。

その内訳は 04年1月：「デジタル放送を受信できるテレビ(3.3%)」「外付けチューナー(1.8%)」

04年7月：「デジタル放送を受信できるテレビ(5.0%)」「外付けチューナー(4.4%)」

05年1月：「デジタル放送を受信できるテレビ(7.8%)」「外付けチューナー(3.9%)」

3年以内に買い替えるとした時、「地上デジタル放送受信可能受像機」と「従来受像機」のどちらを選択するかをみると、これまで同様9割が「地上デジタル放送受信可能受像機」を選択しています。(なお選択者の中に「既に所有している」人が04年1月時点で2.6%、04年7月時点で7.0%、05年1月時点で8.0%含まれています)



調査設計

調査地域.....	首都圏・京阪神の2地区
調査時期.....	第1回：2003年7月15日（10:00）～18日（17:00） 第2回：2003年11月1日（10:00）～5日（10:00） 第3回：2004年1月23日（10:00）～27日（10:00） 第4回：2004年7月6日（10:00）～12日（10:00） 第5回：2005年1月21日（18:00）～25日（17:00）
調査対象者.....	20歳～59歳の男女
調査対象者数.....	第1回：計1045人、第2回：計934人、第3回：計886人、 第4回：計890人、第5回：計1045人 1回目も2回目も、人口比率に応じて男女10歳単位でサンプル配分をして配信し、 回収分を全て集計分析した。
調査手法.....	インターネット調査